



人と環境にやさしいトランジットモデル都市をめざして RACDA

第 221 号 2021/1229 市

**岡山市運賃無料 DAY 開催！
街も人も元気を取り戻そう！**

■去る 11 月 28 日(日)と 12 月 10 日(金)に岡山市の公共交通が無料になる運賃無料 DAY が開催された。筆者も実際に 11 月 28 日の方は市内へと出かけ、その様子を観察してきた。熊本市の先行事例から予想はついてはいたが、やはり玉野渋川特急や勝山方面のバスなど長距離路線に利用が集中し積み残しが発生したり、1 日数本しかないような閑散路線でも座席が埋まっているなど普段では考えられないような情景となった。**相当な効果があったのではないかと考えられる。**

■本原稿を執筆時(12 月中旬)には 11 月 28 日の速報値でしかないが、実施効果としてバスで 2.2 倍、電車で 2.7 倍の利用者数が前週に比べてあったという。また市中心部の百貨店の入店者数も前年に比べて 30~40%増えたというデータも出ており、コロナ禍で疲弊した公共交通や経済に対して良いインパクトが与えられたのではないかと考える。筆者も見て回った中では、バス乗り場がいつにも増して人が多く待機していたり、街中も人で賑わっていたりと忘れかけていたものを思い出させてくれたと感じた。何よりも行き交うバスや電車がたくさんの人を乗せ、街中が元気になることこそ、過ごして楽しい街・何度でも訪れたい街・ずっといたくなる街の原点ではないだろうか。どこでも同じように走っている自家用車と違い、バスや電車は地域の特性や歴史と共に歩んできたからであり、街の顔そのものだからである。

■また実際に乗ってみて気づいた点として、通常の運行の時には高齢者や通学者など「マイカーが使えず、止むを得ず利用している」と見受けられる人が当たり前となっていたが、無料 DAY では家族連れなど明らかに普段はマイカーで移動していると思われる層も利用していたことが挙げられる。ここには公共交通復活に関するヒントがあるように思われる。もちろん、無料の恩恵が多くなることも関係があるだろうが、意外にもマイカーでの移動を「苦痛」に感じている層も一定割合いるのではないかと。要するに「止むを得ず公共交通を利用している層」がいる一方で「止むを得ずマイカーを利用している層」もいるということである。確かに駐車場待ちに何分も待ったり、渋滞に巻き込まれたり、事故リスクがあったりと決して車が万能というわけではない。この「止むを得ず乗っている層」に対しての有効打が利便性だけでなく運賃でもコントロールできるのであれば、今後も同様の取り組みはトライしてみてもいいのではないだろうか。例えば、子育て支援の一環として子連れは公共交通無料にする、期間を絞って定期的実施するなど今後も継続して実施していけば、渋滞や交通事故リスクの低減に対しても効果が出てくるものと考えられる。もとより、わが国で公共交通が独立採算で成立させていたビジネスモ

デルは完全にコロナ禍を通じて持続不可能であることが明らかとなった。一過性の需要喚起策に終わらせず、中・長期的な目線での取り組みと効果検証が望まれる。具体的には実際に街中で消費された金額や滞在時間、渋滞の削減効果など、直接的な公共交通以外への波及効果である。もし、これらの換算した効果が公共交通への支援額を遥かに上回っていたのであれば、経済的には大成功と言える。

■今回は初めての試みということもあり、事業者サイドにおいても大幅な遅延や混雑、混乱など運営に苦勞されただろうと思われる。また広報の仕方や実施方法がベストだったかどうかも分からない。しかしながら、多くのお客様にご利用いただいたことは事実で、客商売である以上はたくさんの方が使って下さったのは歓迎すべきことだ。2021 年もコロナ禍が続き苦境が続いているが、ようやく長いトンネルの出口が見えてきた。コロナ後の「新しい生活様式」が定着しつつあるのであれば、制度も考え方も新しい時代にブラッシュアップしていこう。2022 年は電車・バスを軸とした街を再起動する元年となることを願い、本年のかわら版の締めくくりとしたい。

※以下、当日の様子。多くの人で賑わった。オペレーションに課題を残した部分もあるが、たくさんの人に利用していただいてこそこの「公共交通」であり、あるべき姿を見た思いがする。



NPO 法人公共の交通ラクダ(RACDA)

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502

E-mail: info@racda-okayama.org

URL: <http://www.racda-okayama.org>

RACDA

検索

